

## 令和5年度 学校教育自己診断の結果と分析

教員向け学校教育自己診断における「教職員の適性・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされ、教職員が意欲的に取り組める環境にある」の肯定的評価は40%[R4:55%]、「職員会議をはじめ各種会議が情報交換と課題検討の場として有効に機能している」の肯定的評価は36%[R4:41%]となり、さらに昨年度を下回ってしまった。

昨年度より会議の持ち方を変えて、運営委員会を通して分掌の意見を吸い上げることをしてきたが、職員会議でそれを覆す意見が出る等、会議の混乱を招いてしまった。今後も会議のあり方について変革していく。

分掌編成については長年、個人に仕事が付いており業務の固定化を招いていたので、今年度思い切った校内人事を実施した。すると、うまくいった分掌とそうでなかった分掌が出てしまった。

一方、他分掌のことを知ることができた側面もあるので教員一人一人が経験値を高めた上で、学校全体を見渡した意見が述べられるよう環境を整えていきたい。